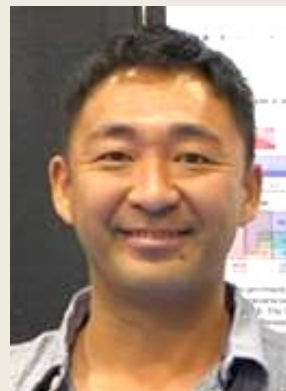




自閉症スペクトラム症の 発症臨界期機構の解明



講師：三好 悟一 先生

群馬大学大学院医学系研究科 遺伝発達行動学講座 教授

日時：2023年4月19日（水）17:00～

場所：名古屋市立大学桜山キャンパス

脳神経科学研究所5階 会議室

本セミナーはZOOMによるオンライン配信も致します。

オンラインでの参加は下記URLからログインしてください。

URL：<https://us02web.zoom.us/j/81585069791> (ミーティングID 815 8506 9791)

自閉スペクトラム症（自閉症）は約20-50人に1人の幼児に発症する発達障害である。近年確立した自閉症モデルマウス群では、生後幼児期の抑制回路に介入することで自閉症特性のさらなる悪化、逆に治療回復も可能であることを見出し、マウス生後2週目が発症の臨界期であると提案した。本講演では、発症の臨界期に機能回路の構築を促進する回路・分子発達メカニズムについて議論する。

Reference:

Miyoshi et al., FoxG1 regulates the formation of cortical GABAergic circuit during an early postnatal critical period resulting in autism spectrum disorder-like phenotypes.

Nature Communications 12: 3773, 2021

世話人：澤本和延（医学研究科・神経発達・再生医学分野）

TEL: 052-852-8532, E-mail: sawamoto@med.nagoya-cu.ac.jp